



# イースターニュース Vol.4

2020年4月12日発行

大井バプテスト教会/イースター委員会

## 2020年イースターテーマ:「わたしは復活であり、命である。」

「わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」ヨハネによる福音書 11:25-26

\*\*\*\*\*

## 本日4/12(日)はイースター。イエス・キリストはよみがえられました。

新型コロナウイルスのために、4月5日から、共に集う礼拝を休止しています。世界中が苦しんでいる今こそ、共に祈りたい、賛美したいのに、本当に悲しいです。

でも、礼拝に集うことを恋い慕うこの悲しみは、きっと惨めで寂しい悲しみではありません。詩編や預言者たちの歌にあるような、「神のみこころに適った悲しみ(2コリント7:10)」であると信じます。自分ひとりの悲しみでもありません。受難週の日々、わたしたちはこの同じ悲しみ、同じ祈りと賛美によって、主イエス・キリストに結ばれてきたと信じます。いつか再びともに集える礼拝を、主御自身が成し遂げてくださると信じるからこそ、主の十字架の前で心からの涙を流せるのだと思います。

主の復活の朝は、マグダラのマリアの涙で始まります。でも、「なぜ泣いているのか、誰を探しているのか(ヨハネ20:15)」と、復活された主が後ろから声をかけてくださるまで、きつともう少し...ハレルヤ!

### ■イースター早天のホーム祈禱会 聖書箇所と賛美歌

ヨハネによる福音書 20:1-31 新生讚美歌 241, 252

### ■イースター礼拝動画配信 午前11時予定 教会ホームページをご覧ください。

願わくは、動画を見られる方も、インターネットを使用されない方も、この時間に合わせて、それぞれの場所での礼拝をささげられますように....

■4月8日(水)朝の祈禱会で証しをする予定だった姉妹が、用意していた証しを送ってくださいました。裏面をお読みください。

## ■■■ 証し「十字架と私」 ■■■

H.Y姉

以前に比べたら、ほんの僅かですが、神様の恵みや愛、赦しといったものがわかりかけてきた私にとって、十字架の意味は改めて神様との関係を見つめ直す良い機会となりました。

バプテスマを受けてから5年が経ちましたが、その前後に、耐え難い死に直面したり、平和を作らず多くを失った人間関係等、心身に痛みが伴う大きな試練を頂きました。幼い息子を抱えただ泣くばかりでしたが、なんとか教会につながり通い続けられたことは幸いでした。賛美歌や代表の方が祈る祈りを通して、抱えていた人に対する恐れ、不信感、無力感、悲しみ、怒り、悔しさ等、到底表せない感情を涙とともに解放し、次第に癒されていきました。時には説教で語られる神様の掟が厳しくて打ちのめされたり、葛藤も覚えますが、少しずつ神様の愛と赦しを求める自分に変えられていったのです。

そのような中で、自己中心で愛に乏しく、人を赦せない罪や、悲しみや過去に囚われて悔い改めできていない罪が示されました。そして、決して自力では変えられず、繰り返してしまう罪の根深さや惨めな私を救ってくださるのは、愛ゆえに十字架にかかったイエス様の血潮のみであると知りました。

神が光の中におられるように、私たちが光の中を歩むなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血によってあらゆる罪から清められます。

(ヨハネの手紙I 1:7)

十字架の愛を受け取る資格がない私が、今光の中を歩んでいるのかよく分かりません。十字架の重さや深さは深遠なものですが、

わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。

(ヨハネによる福音書11:25)

にあるように、死や罪に打ち勝ち復活したイエス様に信仰によって希望を持ちたいです。

これからも全知全能である主に委ね、良いご計画を持って生かして下さる主に感謝しながら歩んでいきます。